

令和元年度「生徒の英語力強化のための英語指導力向上事業(英語教育改善プラン推進事業)」 ～志木市立宗岡第三小学校～

現状の課題

児童 ⇒ 主体性に課題が見られ、自分の思いを伝えることが苦手

教職員 ⇒ 外国語の指導に対する苦手意識が強い

具体的取組の内容

児童が思いを「言いたくなる」「聞きたくなる」「伝えたい」授業づくり

- ・単元を見通した「聞く活動」の設定
- ・「やり取り」を充実させる学習形態の工夫
- ・児童が必然性を感じる言語活動の設定



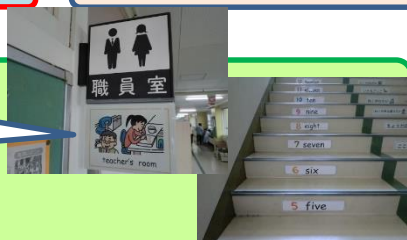
教職員の指導力向上

- ・「ねらい」や「困っていること」を共有する全員参加の研修
- ・3年生以上全学級での公開授業の実施
- ・朝自習を活用した低学年での外国語に慣れ親しむ活動
- ・義務教育9年間を見通した「CAN-DOリスト」の作成

児童が英語に慣れ親しむ環境整備

- ・毎週15分×2回の朝自習での外国語活動
- ・教務部等を中心に作成する学習とリンクした校内掲示
- ・身近なものを英語で表した掲示物の作成

日常生活に役立つ
校内掲示



ゴールが見える
学習マップ



成果①

<児童アンケートの結果>

7月
○英語のコミュニケーションが楽しい 77%
○授業ではグループ活動が最も好き 46%

11月
○英語のコミュニケーションが楽しい 79%
○授業ではグループ活動が最も好き 51%

6年児童「みんなの前でも、恥ずかしがらずに挑戦できるようになりました。」
◎「聞く活動」が好きな児童が増え、聞きとることに意識の向上が見られた。

成果②

<教職員から見た児童の変容>

- ・学習した外国語を使ってみようとする児童が増えた。
- ・互いに寛容な気持ちが育ち、伝え合う上での不安が解消されてきた。

<管理職から見た教職員の変容>

- ・授業のイメージをもてるようになり有効な言語活動の設定ができるようになってきた。
- ・外国語の指導に対する苦手意識が改善され、新学習指導要領の実施に対する不安がなくなってきた。

今後の課題・方向性

【課題】

○外国語の学習が役に立ったり、できるようになったりしたことがある。42%

⇒「外国語の学びが役に立っている」実感が得られにくいという結果となった。

【今後の方向性】

現実に即した言語活動を設定するとともに、他教科と併せて、キャリア教育の視点と関連させ、自身のこれからのつながりを意識させたい。